

命をかけて、山を、人を救う。

諏訪地区 山岳遭難防止対策協会

皆さんは、諏訪地域の山々において遭難防止活動に取り組み、時には警察と協力して救助活動も行う民間団体「諏訪地区山岳遭難防止対策協会（遭対協）」をご存知でしょうか。成り立ちは62年前まで遡り、現在は登録者数約200名に上ります。今回は、遭対協の山岳救助隊長でありながら総隊長を務める高橋政男さんと、事務局を務める茅野市産業経済部観光まちづくり推進課の長谷川誠さんにお話を伺いました。



2011年より山岳救助隊長を務める高橋政男さん
茅野市産業経済部観光まちづくり推進課長谷川誠さん

山岳遭難防止対策協会とは

私たちの住む諏訪地域には、全国の登山者にも人気の八ヶ岳や霧ヶ峰などの山々があります。それらの山で遭難が起きないようにする防止対策活動や、遭難が起きたしまった場合に警察と協力して救助活動を行う民間の団体があることを皆さんはご存知でしょうか。それが「諏訪地区山岳遭難防止対策協会」(以下、遭対協)です。

具体的な活動内容

遭対協は3つの部に分かれて活動を行っています。遭難が実際に起きた場合、警察からの要請に従って遭難者の救助を行う「救助部」、登山口での相談会や登山計画書の提出を促すなど、登山者に対する補導活動を行う「防止対策部」、登山道にある指導標(登山道案内看板等)の整備・維持・更新を行う「指導連絡部」です。

どの部も重要な役割を担っており、私たちは、遭対協の方々のおかげで安全に登山をすることができているといえます。

遭対協の成り立ちと背景

遭対協は、62年前(昭和33年)に前身となる「諏訪遭難救助対策協議会」が設立されたことから始まります。山での救助活動は、高い登山技術を持ちながら、地域の山を熟知している必要があったため、「諏訪地域の社会人山岳会」が母体となって遭対協が発足されました。現在は、山岳会及びスキー団体、山小屋の皆さんがボランティアで活動を担ってくれています。

コロナ禍での救助の実態

コロナ禍における救助活動は、通常の救助活動とは異なります。遭難者を背負って救助する場合や応急手当を行う際など、第一に感染していないかどうかを確認しなければなりません。感染している可能性がある場合には、感染防護服等の着用、マスク・手袋等の装着などの防具による感染防止措置を取る必要があります。防護服等を着用しながら救助に当たるのは遭難者と救助者双方の負担となり、救助までに時間や労力を要します。

コロナ禍での山岳遭難の件数は全国的には減少傾向ですが、諏訪地区では例年並に発生しており、感染の恐れもあることから、隊員の方々は例年以上のリスクを負って救助活動を行っています。遭難防止対策を登山者一人一人が心掛け、そのような事態を避けることが重要です。

登山者が気を付けるべきこと

遭難しないためにはまず、自分の能力をきちんと認識して、余裕を持って登れる山を選ぶことが大切です。長野県が公開している、県内の登山ルートの難易度を記した『山のグレーディング』などを参考にしながら、自分に合った山を選んで登山をするように心がけましょう。

また、長野県では登山計画書の提出が条例化されています。今はインターネットからも計画書の提出ができるので、必ず提出してから登山にいきましょう。行動予定をしっかりと書いて提出することで、万が一遭難してしまった際の手がかりとなります。思うように書けなかった場合には、登山の情報収集が不十分であることを再確認でき、遭難防止にも繋がるのです。

装備品についても、季節や山に合わせた装備を充分に揃えることが大切になります。中でも所持すべきものが携帯電話と予備バッテリーです。遭難してしまった場合に遭難者が自ら通報することができ、また救助隊もGPSの位置情報で遭難者を探すことも可能となります。

そして、どのようなシーズンにおいても危険なのが、単独登山です。自己判断のみでの行動となることが多くリスクが高まるため、できる限り避けましょう。

最後に、遭難した際にかかった救助費用等を補填してくれる『山岳保険』への加入もおすすめです。今は様々な種類の山岳保険があるので、自分に合った山岳保険への加入を検討してみてくださいいかがでしょうか。

活動を行う上での思い

10年近く隊長を務めている高橋さんは、「救助を待っている人がいれば、動ける限り何とか助けたい」と救助への思いを話します。事務局を務める長谷川さんも「この協会に入ってくださいという方は皆、山が好きです。その山で遭難がないよう、また、もしも遭難が起きてしまったときには助けてい、という思いを持って活動してくれています。そういった方たちの思いを少しでも多く形にすることで、実際に遭難を減らすという活動がスムーズにできるように今後もサポートしていきたい」と力強く話してくれました。

登山において、自分の命を守ることは、遭対協の皆さんの命を守ることに繋がります。どちらも危険に晒さないよう、登山の際はしっかりと準備を整えて安全な登山を心掛けていきたいですね。

今期の登山における注意事項

秋山 低体温症に注意

秋も山頂・稜線は0℃近くになります

- 防寒具(服装・帽子・手袋など)を携行する
- 行動食でカロリーを摂取したり、お湯などで体温を維持する

きのこ採りによる遭難が多発しています

- 山に入るときはしっかりと計画を立てる
- 家族や職場などに行き先を必ず伝える
- 単独入山、単独行動は避ける
- 熊などの野生動物に注意する

下山した後は…

- 疲れているので交通事故には要注意
- 暗くなるのが早いため歩行者は夜光反射材などで身を守る
- ドライバーはハイビームを活用し、安全確認を確実に

冬山 余裕ある計画を

冬山での行動不能は致命的!

- 充分な日程と装備で余裕を持った計画を立てる
- 単独登山は特に危険!
- 冬の厳しさを考慮した慎重な行動をとる

アイゼンは凶器! 装着時は緊張感を!

- 歩幅(横幅)を広く、前を歩く人と一定距離を取る
- アイゼンを履いたままシリセード(お尻で滑り降りる行為)をするのは厳禁

自分の足に引っ掛けて転倒→骨折
バランスを崩して転倒→仲間の足に刺さる
などの危険があります

冬山での道迷いに注意!

- 間雲にトレース(踏み跡)を辿らない
- 自分の位置と進む方向をこまめに確認

雪上のトレースが自分の目的地へ向かっているとは限りません
雪底などの危険箇所である可能性もあります

コロナ禍 特に遭難は要注意

慎重な行動をお願いします

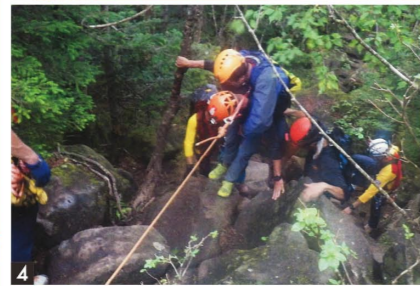
- 長野県から登山者への5つのお願い
- ①体調に不安がある場合は絶対に入山しない
 - ②山小屋・テント場の営業確認、事前予約の徹底
 - ③十分に難易度を落とした山選び
 - ④混雑を回避する登山計画による行動
 - ⑤感染予防グッズの携帯と、ゴミの持ち帰り
- 上記を確実に実施しましょう

山岳救助に時間がかかります

救助隊員の感染防止対策のため、装備・体制を整えるのに通常より時間がかかります。また、山岳遭難発生時は状況に応じてその場でのビバーク(緊急的事態による山中での野宿)を指示させていただくことがありますので、一晩耐えられる装備は携行しましょう。

information

茅野市 産業経済部 観光まちづくり推進課 観光係
〒391-8501 長野県茅野市塚原二丁目6番1号
☎0266-72-2101(内線423) 担当:長谷川
✉kanko@city.chino.lg.jp



1. 横岳、南八ヶ岳連峰にある標高 2,830mの山 2. 秋山にて救助訓練をする様子 3. 冬山にて救助訓練をする様子
4. 秋山での救助の様子 5. 冬山での救助の様子 6. 秋山登山相談所にて登山者にルート案内をする様子